

人とのつながりをつくる…「ありがとう」

学校長 日暮 勤

桜に葉が茂り、サツキがたくさんの花を広げる5月です。瀬ヶ崎小学校でも、すみれの会の皆様が心を込めて栽培してくれている、多くの花が咲いています。これらの花を見ると、関わる皆様に「ありがとうございます」と感謝の気持ちを心の中でつぶやく自分がいます。

さて、最近、私が関わった子どもとのエピソードを紹介します。その子どもは、関係の先生から「うそ」をついたことへの指導を受けていました。その後、その先生が「話は終わりました。校長先生から〇〇さんに何かありますか？」と声をかけてくれたので、「少し話をさせて」と子どもの待つ部屋に入りました。

その子は、初めて話す私への緊張と、何を言われるかという不安から、無言でしばらくうつむいていました。私は「●●先生に話してくれたの？ありがとう。」と話を切り出しました。これは、緊張を和らげようと自然と口から出た一言でした。その一言から、その子は少しずつ顔をあげ、私の問いかけにゆっくりと答え始めました。正直にふり返り、語る〇〇さん。背負っていた「うそ」の罪悪感を下ろした〇〇さんの姿に「本当は正直に自分を表したかった」という思いが伝わってきました。「話せて楽になったでしょ？」と私。続けて〇〇さんに「校長先生にも話してくれてありがとう。」と伝えました。

次に「どうして正直に話せなかったの？」と聞くと「こわかったから。」と話す〇〇さん。「先生や親から怒られる」と想像したのでしょうか。私は『〇〇さんは先生にとって、とても大切な子どもだよ。』『心配だったんだ。』『●●先生も担任の先生も私と同じだと思うよ。』と話す、●●先生も横で大きくうなずいてくれました。

最後に「校長先生は『ありがとう』と『ごめんなさい』という言葉が好きなんだ。どちらも相手への優しい思いを表す言葉だし、人を傷つけない言葉と思っているんだ。」と結びました。そして「何か言いたいことある？」と尋ねると、〇〇さんは少し考えて「うん」と頷き、小さな声で「●●先生、ありがとう。」と言ったのです。「ごめんなさい」というような言葉がでるだろうと思っていた私は、なによりも初めに、目の前にいる、ずっと寄り添い関わってくれた●●先生への感謝を言葉にしたのです。胸が熱くなった私は、興奮を隠しながら「それを聴いて●●先生、涙流してるよ」と一言。慌てて泣きまねをする●●先生。それを見た〇〇さんから思わず出た笑顔。3人がつながった瞬間です。

その後、●●先生が「ほかにある？」と聞くと、少し考え、ここでも「ごめんなさい」ではなく「校長先生ありがとう。」と言ったのです。この短時間関わっただけの私への「ありがとう」を私は全く予想していませんでした。私は嬉しくて、心を込めて「〇〇さん、ありがとう。」と伝え、笑顔で別れました。人とのつながりを、一番に「感謝」で表すこの子からの私の学びでした。

4月は全校児童が参加した「1年生を迎える会」がありました。2年生から6年生から、心を込めてつくったプレゼントを受け取る1年生の「ありがとう」と、1年生に微笑みかける上級生の「ありがとう」とがつながる素敵な会でした。「私もこんなスタートだったな」とこの日の1年生の姿から、自分の時も「自分が大切にされていたこと」をふり返る上級生。私は見ていて嬉しくなりました。瀬ヶ崎小の子どもたちが、異学年の心の交流を大切に、毎年積み重ねてきた経験からの温かいつながりの成果です。

どちらのエピソードも、つながりをつくる「ありがとう」が、この子どもたちに「自分も他の人も大切な存在」という思いを育てていることを実感した、とても温かい4月でした。「ありがとう…」

